

中国視察出張報告書

主 催：長野県森林組合連合会

期 間：平成 26 年 9 月 14 日（日）～17 日（水）

参加者：組合長、副組合長、総務課長、業務課長代理

現在、エスエルワールド（株）と長野県森林組合連合会が契約して行っている中国輸出について、現地調査として中国視察を行った。当組合木材生産量が 2 万立米を超えようとしている中で、C材販売の主流となっている中国輸出の今後の可能性を判断するために、現地の木材流通の状況を原木取引から加工、販売、利用までを総合的に調査を行った。

この視察にあたっては、エスエルワールド（株）の取引先である住友林業（株）の現地法人に、行程のすべてについて段取りいただいた。

◇上海の住宅事情

中国では個人所有の住宅は存在しない。土地については全てが国の所有であり、個人が所有することはない。

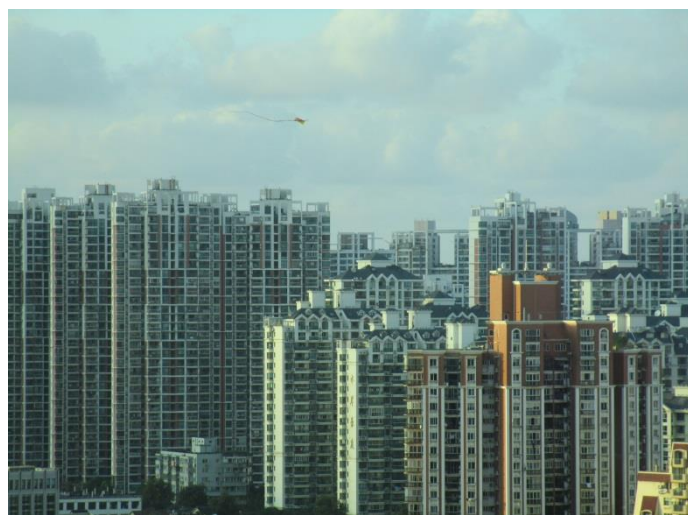
政府から開発業者などが長期間の借地契約（70 年）を結び、マンションなどの集合住宅を建てている。

マンション販売でも、あくまで居住権の販売である。上海ではマンションの価格は平米単価 100 万円を超えているという。

販売されるマンションは、内装工事は行われていない。中国では内装は購入者が行わなければならない。

サラリーマンの初任給が 6 万円程度であるので、一般市民が購入することなど考えられない。

上流階級の投資目的での購入が多いため、依然として価格は上昇しているという。

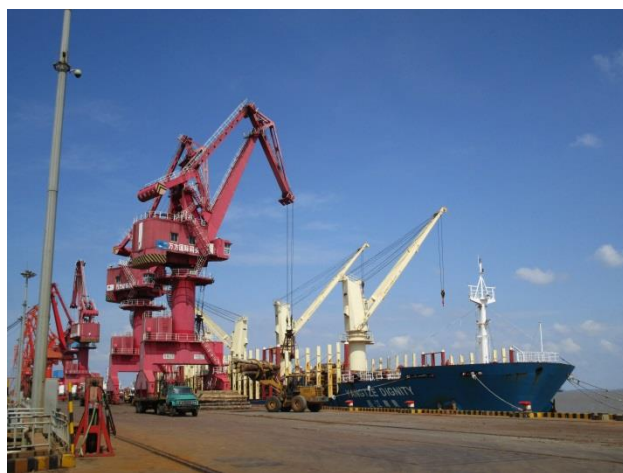


◇太倉港

太倉港では直江津港からの輸出材を見る。

港に積まれた丸太の中から、木口に長野森林組合北部支所で書いた北部〇〇〇〇という森林所有者名や、長野市内の素材生産業者の鋼和という記載があった。北信木材センター（市場）が出荷したものと確認できる。そのほか、当組合や栄村森林組合で出荷した根曲り材や曲り材が多くあり、北信から出た材だと確認できる。

中国への国産材輸出では住友林業は後発であり、現在まで20,000 m³を輸出している。その内7,000 m³が直江津港からの物。



◇上海港

上海港で九州と青森からの輸出材を見学する。

九州の材は当組合が出荷しているものとは、まったく違う良い材であり、北信にくればA材として取引されるような材であった。

青森の材も同様であり、直江津港から輸出されているものとは格段の差があった。陸揚げする港が違うのはそのためか。ただし、取引の価格差は不明。



◎北信州の輸出の流れ

森林組合⇒県森連⇒エスエルワールド⇒住友林業⇒現地の商社⇒製材所

◎中国の木材輸入

ロシア、カナダ、アラスカからの木材については、中国に陸揚げしてから燻蒸処理が行われている。

それ以外からの輸入材については、燻蒸処理を輸出国において行った物でなければ陸揚げできない。

直江津港では、かつてロシア（ソ連）や北米から木材を輸入していたときの燻蒸処理施設があるため、中国への木材輸出にとって好条件の港といえる。

◇中国の製材所

この日は、九州から輸出されたスギを製材していた。

製材工場には帯鋸が5基あるが、送材車はなく丸太を人間が二人で持ち、人力により材を送るなど全てを人力で行っている。

その他、丸鋸による細断や梱包、オガ粉の片付けまで全て手作業で行っている。

1日に大型トレーラー1台分の丸太を製材し月間の加工量は1,000 m³になり、丸太の歩留まりは100%以上になるという。120%になった例もあるという。

作業員は農村部からの出稼ぎが中心で、工場に隣接した簡易な宿舎に住まわせている。製材をしている作業員の給与は日本円で10万円を超えるという。

上海の大学新卒者の給与が6万円程度であることを考えれば高収入といえる。





◇別荘開発地

上海市内で上海市政府が全額出資する上海実業有限公司が余山で開発する別荘地の、住友林業現地法人が請け負った物件を見学する。

淀山湖岸のゴルフ場に隣接する高級別荘地である。地上 2 階、地下 1 階の建坪 150 坪の物件で、内装のない状態で 2 億円の販売価格である。内装工事に 1 億円ほどかかり、総額 3 億円の物件である。

居住する者はほとんどなく、購入者は投資目的がほとんどである。





◎中国の木造建築

基本的に中国は集合住宅であり、木造建築を建ててはいない。

かつては木造が主流であり、紫禁城など歴史的建造物は木造で建てられているが、古くからの繁栄と「耕して天に至る。以って貧なるを知るべし。」という李鴻章の言葉にもあるように、森林を耕地に変えてしまったために、木材がなくなってしまった。

このためレンガによる建築が多い。近年は鉄筋コンクリートや鉄骨構造などの建物となっている。

この住友林業が請負った別荘はツーバイフォーの木造となっている。軸組構造はまだないとのこと。

◎中国の別荘

基本的に戸建住宅は許可されないが、別荘に限っては許可されるという。

開発業者が長期契約で土地を借りて、戸建や集合住宅の別荘を建てて売り出している。

◇木材製品市場

上海市内の製材品や木工品を加工販売する市場団地を見学する。

前日見学した製材所で製材したような製品などの他、様々な製材加工品が小売されている。また、様々な木工加工をする店舗があり、木工団地的なところでもある。

販売されているマンションなどが、内装工事をしていない状態で販売されているため、一般市民がこうしたところに材料を購入にくるという。



◇まとめ

経済成長期にある中国では木材も投資的な物件であり、在庫していても価格上昇が見込める物である。

屋外での長期在庫となることが前提であり、地面に触れている個所など腐朽している材も積まれている。木材の質の良さを求めている。港では製材品までが野ざらしで積まれたままとなっていた。

また、丸太を製材加工する利用率も高く、ムダを全く出さない。

曲り材を短く切って使うということも、全てが人力で製材していて、そういうことも可能な状況にあり、JAS規格で材積計算した曲り材は得をするということも嘘ではない。

取引価格はニュージーランド材が基準となっており、現在、若干の価格低下があったが、住友林業の話では今後、ニュージーランド材の価格上昇があるとみているという。

今回の視察の住友林業の対応の良さを見ても、今後も中国輸出は可能性が高いと思われる。